



学校だより

かたばみ

平成 29 年 9 月 21 日 NO.8

大東市立灰塚小学校

校長 伊東 敬太

実り多き秋となるために



朝夕は涼しく、肌寒さを感じる日も増えてきましたが、昼間はまだ日差しも強く、汗ばむ日もあります。9月も半ばを過ぎ、今が終わればよいよ今年度も折り返しです。

2学期の学習、学年での取組みをさらに深めていく時期です。各教室では、教科の学習を進めるとともに、「灰小文化祭」に向けた準備、また、遠足や修学旅行に向けての取組みを進めているところです。季節の変わり目で体調も崩しやすいこの時期、食事や睡眠をしっかりと取るなど、日々の生活習慣をもう一度見直し、体調をしっかりと整えるよう心がけましょう。

＝ 『灰小まつり』 ＝

9月15日（金）、児童会による『灰小まつり』を行いました。まず全校児童が体育館に集まり、1・2年生がおみこしを担いで「ワッショイ、ワッショイ」のオープニングセレモニーで盛り上がったのスタート。その後、3年生から6年生の各クラスが用意したお店を、スタンプラリーカードを持って回っていきました。



「せっけんカーリング」「ゆらゆらターザンロープ」「風船リフティング」「5メートル走」などなど、それぞれに工夫を凝らした楽しい企画がいっぱいでした。

＝ 家庭学習・自主学習の習慣を ＝

基礎学力の定着のためには、家庭学習をはじめとする自主学習の習慣が大切です。読書や視写などの課題から、少しずつ自分で工夫した課題へとつなげ、短い時間設定からでも、続けて習慣にしていけることが大切です。4月に配付しました『家庭学習のてびき』（灰塚小ホームページにも掲載）を参考に、日々の課題や時間設定、次の学年に向けての目標など、ぜひ一度ご家庭で話し合ってみてください。



～ 手をはなしても、目をはなさず ～



次の日の学校の準備、宿題など、親としてどこまで一緒にすべきか、何年生まで手伝うべきか、悩まれることもあろうかと思えます。その答えは一つではなく、その子がどこまでを必要としているか、どこまで自分でやらせることがその子の力を伸ばすことにつながるかをしっかりと見極めることが重要です。

また、年齢が上がるにつれて、心の成長に伴い、親の手から少しずつ離れていくことは自然なことかもしれません。しかし、そのことは決して子どもから目が離れ、意識が離れていくことではありません。子ども自身が良い意味で“見られている”“見守られている”と覚えることが大切でしょう。